

保育の友

2023

8

特集

地域みんなの保育園

～多様化するニーズにこたえる～



事例4

地域の子育て支援拠点としての園の役割 ～園内多職種のつながり合いで保育を高める～

愛知県・幼保連携型認定こども園 明照保育園 主幹保育教諭 中島 美奈子

なかしま みなこ

1984（昭和59）年から明照保育園で勤務。2005（平成17）年より豊橋創造大学短期大学部幼児教育・保育科にて非常勤講師として勤務。また、2018（平成30）年から豊橋市教育委員を行う。保育者をめざす養成校にて、保護者の予防的支援の大切さについて授業を行うかたわら、子どもとかわる楽しさや、子どもを成長を支える保育者の仕事への理解が深まることをねらい、小中高生等との保育交流の機会を積極的にもっている。



「トナタデモオイデクダサイ」を受け継いで

豊かな自然と温暖な気候に恵まれた人口約37万人の豊橋市にある当園は、1953（昭和28）年に創設され、2015（平成27）年度からは幼保連携型認定こども園となり、今年度5月現在の園児数は251名です。

「トナタデモオイデクダサイ」

園の前身であるお寺の境内に、園名の看板よりも大きく掲げられているというこの文字は、70年たった今も受け継がれています。時代を超えて、地域に開かれた園、つながり合う

園という姿勢を大切にしながら、さまざまな取り組みを行っています。

多様な社会における地域の子育て・子育て支援拠点としての役割を果たし、同時に園の保育の質も維持するためには、保育者だけではなく、保育者だけでなく、保育者を身近でサポートしてくれる専門性をもつ多職種の存在が園内に必要であると感じています。

多職種に支えられて

当園では、子どもが豊かに育ち、保護者への予防的な支援を行っています

くためには、園生活を共にする多職種の連携が重要であると考え、小中学校の教員やスクールカウンセラー、臨床心理士、保健師など、子どもの育ちにかかわるかたへ向けた公開保育を5年間続けたり、連携を密にとったりと、それぞれの専門的な視点からさまざまな話し合いも重ねてきました。また、卒園後も家族で来られる行事や機会が多くあることで、園の保育への理解や共感から、なかには保育者や保育補助を希望し、園に就職した若手や中間層の存在がかねてよりありました。そのようなこともあり、少し前から看護師や栄養士、

～アンケートのお願い～
今月号の特集はいかがでしたか？ ぜひ皆さまの声を聞かせください。
(詳しくは76ページまたは右の二次元コードへ)



「おやくる」では保護者が子どものあそびを夢中になって楽しめます。

体育指導員、保育カウンセラーという専門職や児童クラブ指導員等が増え、さまざまな立場で園の保育や法人内の取り組みに携わっています。あくまで別のかたちで園の保育にかかわり、園の保育姿勢に共感したうえで勤務をスタートさせた職員がほとんどです。振り返ればここ10年前後の間に、園内多職種存在は大きくなり、専門的な視点から保育者の保育をサポートするために、なくてはならない存在となっています。

たとえば「児童クラブ」は、保護者の就労支援、あそび場や生活の場を補完すること、何より園児の卒園後の成長を見守ることのできる場として20年ほど前から運営しており、卒園児を中心とした小学校6年生ま

もヨガやフィットネス、ボードゲームなどで盛り上がり、おしゃべりを楽しみます。「なかよし保育」と「おやくる」のどちらの活動内容も、保育者と、栄養士や体育指導員、保育カウンセラーなど園内の多職種がそれぞれの専門分野の知識をもちよって計画しています。

さらに子ども食堂を「おとなりさん」と称して、6年ほど前に始めました。毎週木曜日の夜になると地域の家庭に加えて、園児家庭も延長保育の利用後や、降園後に再び晩ごはんを食べに集まり、保護者同士でも楽しい会話が弾みます。ここでは調理員や栄養士、ときには保育カウンセラーなど園内の職員もよりそったり会話に加わったりします。「うちの子、こんなにいろいろ食べるんだ」と驚くなど、みんなで食べる楽しさから育まれる心とからだの健康を、みんなで味わえる時間にもなっています。

無料学習支援、不登校生支援とし

での119名が利用しています。児童クラブの指導員は、午前中は園児の保育補助等を行い、児童下校後は児童クラブで指導を行います。保育園から12年間の子どもを育ちを見通してかわるので、子どもたちは学校から「ただいま〜！」と、慣れ親しんでいる職員がいる園舎でホッとした顔を見せ、自主的に勉強をしたりあそんだり、園児のお世話もしてくれそうです。

夏休み等の長期休みになると、全員が園児のいる各クラスに分かれて保育をお手伝い。ときにはけんかの仲裁もします。初めは戸惑いながらも、いつしか園児たちの見えない気持ちに気づきそつとよりそう姿勢とでも頼もしく、小さな子どもの世話をしたり、自分が手本となったりすることで自信や思いやりの気持ちももっているようです。児童にとっては、慣れ親しんだ園だからこそ、安心して過ごせる。保護者にとっても、知っている職員が見てくれるからこ

と豊橋市の適応指導教室「ほっとプラザ西」との交流も毎月行っています。さまざまな理由で小学校や中学校に通えなくなっている子どもにも、園児の世話をしてもらったり、保育者の手伝いをしてもらったりしています。保育者や保育カウンセラーに見守られるなかで、自分を頼っている子どもたちと対応することで笑顔も見られ、少しずつ積極的になることから、いずれ人の役に立ちたいという思いが育つことが期待されます。

協働して地域子育て支援に 取り組む

ときには、保育中の子どものケガ等で病院に連れて行くなど、親子にづらい思いをさせてしまったこともあります。職員で振り返り、どうすればよかったかを話し合う際に、看護師や体育指導員保育カウンセラーなどの専門的視点からのコメントは、保育者集団にとって子どもや保護者、保育環境などに対する改善の方向性

そ、安心して預けることができる環境となっています。

月1回の土曜日には「なかよし保育」と称して、園児だけでなく地域の小学生や高齢者などが交流できる場を提供しています。この日はクラスのを越えて園全体をあそび場として開放することで、園児は普段と違う保育環境を新鮮に感じながらあそび、小中学生は懐かしさにホッとしながら小さな子どもの世話をし、地域のかたは子どもたちのパワーに圧倒されつつも、自分も元気がもらえる楽しさ、それぞれが刺激を受け合っていて過ごしています。

さらに「なかよし保育」の時間を使得、保護者のリフレッシュの場「おやくる」も行います。仕事と子育ての両立で余裕のなくなっている保護者に、少しでも自分を取り戻してもらおうと、園児に人気の集団あそびや工作、ダンスを行います。体育指導員はさまざまな運動ゲーム、栄養士はクッキングを進め、ほかに

を見いだすヒントになります。

保育者と多職種の職員がそれぞれの専門分野を尊重し、ときには専門分野を越えた活発な話し合いから化学反応が起こり、思ってもみなかったアイデアが浮かぶこともありま。園内の多職種からは、間近で見ているからこそ、子どもや保護者へのかかわりに対する保育者の専門性への評価も高く、迷うことも多い保育者にとっては保育の原点に立ち戻れる機会となっています。

多様な生き方が尊重される今の時代の保育・子育てには、多くの専門的な視点が必要で、「ドナタデモオイデクダサイ」の精神は、園に集まる職員にも受け継がれていることを実感します。地域の子育て支援拠点としての園のあり方を考えるうえで、多職種による日々の視点やサポートに支えられ、保育者の専門性が発揮されるような保育現場のあり方を、これからも大切に見つめていきたいと思っています。